

が、高度成長期でギャラ（公演料）は高騰。給料も上がっているはずなのに、会費はずっとそのままだから、やりくりがたいへんでした。

森元 平成に入って、津山文化振興財団が組織されて、津山市民劇場は解散。新たに市民芸術劇場として事業を引き継ぎました。

作陽音楽大学の移転

森元 一方、音楽関係では作陽音楽大学が開校（1966年4月）し、その後、津山市民オーケストラが結成されました。（1977年）



神田恵子さん

神田 津山第九演奏会のオーケストラは、第1回（1983年12月）から第7回（1989年）まで渡邊暁雄先生の指揮で津山市民オーケストラが務めていました。渡邊先生が亡くなられて、第8回は、渡邊暁雄先生追悼演奏会。市民オーケストラとしてはそれが最後です。その後、オーケストラは寄せ集めの時代が続いたのですが、それではいけないと思い、私は発起人の一人となり、津山交響楽団を2008年に立ち上げました。

森元 作陽音大は津山文化センター大ホールを年間に数多く利用していましたが、1996年に倉敷市に移転してしまいました。

2007年の第7回津山国際総合音楽祭では、渡邊康雄指揮・九州交響楽団でマーラー交響曲第10番の演奏会が開かれました。九州交響楽団には、作陽音大の卒業生が大勢いて、馴染みあるステージで里帰り公演になったといういきさつがあります。

神田 私は作陽音大の1期生で、津山市の成人式に呼んでいただき、その時、「ハレルヤ」を歌いました。

—— 神田さん、津山文化センターは、音響的にはいかがですか？

神田 演奏の上手な人にとっては、とてもいいホールです。下手な人にとってはアラが出て厳しいかも（笑）。ベルフォーレ津山は、ソロや小編成のアンサンブル向きで、オーケストラやブラスバンドは津山文化センター向きです。私はこちらで演奏するほうが落ち着きます。第九演奏会も最近日は曜日の昼でしょう。前は、土曜日の夜でした。演奏するのも、夜と昼では気持ちの入り方が全然違います。

印象に残る公演の思い出

—— 印象に残っている公演の思い出やエピソードをお願いします。

神田 第5回津山第九演奏会（1987年）で、渡邊暁雄先生が突然、倒れられたんですね。レコードも録音中で

したし、お客様もオーケストラも合唱団も静かに誰も立たれることなく、じっと待っていました。それが一番印象に残っています。

小林 たまたま会場に来られていた渡邊先生掛りつけの中島先生が飛んで来られ、「気付けにウイスキーか何かないか」と言われて、当時センター内で営業していたレストラン城から取り寄せました。しばらくして、渡邊先生が「やります」ということで、すでに第3楽章で、合唱団はスタンバイしていました。

神田 渡邊先生は最後までやりきりました。演奏する方もいつもと違ってとても緊張したと思います。観客の皆さんもザワザワすることもなく、シーンとしていました。

小林 ギタリストの中林淳真さんが来られた時、「ホールが古くて申し訳ありません」と申し上げたら、「たっくさんの方が来られていろいろな音を出している歴史あるホール。ヨーロッパなんかと比べるとこんなの古さのうちには入りませんよ」と言っていました。日本はとかく、何でも新しい。古いものを大事に使って、そこにどんな人たちが汗を流し、足跡を残したか。みんなで思い合うことが大切だと思います。

神田 そもそも音を吸収して、音色も変わってくるし、私たちの音もたくさん入っていると思います。ですから、これからも大切に使ってほしいですね。

小林 ヨネヤマママコさんのパントマイム（1980年）の時、雨降りて舞台の上が本当に雨漏りして、即興で傘をさしてパントマイムされました。見事でした。それから、公演中に本物の小鳥が入ってきて啼いたこともあるんですよ。そしたら、舞台の人たちは「自然が参加してくれた」とうまく言ってくれました。

八木 最近のことになりますが、松竹大歌舞伎公演（2012年）、蠟燭能（2014年）は、地方では滅多に観られないものなのでとてもよかったです。

—— 松竹大歌舞伎では、途中、トラブルで停電しましたね。本当にハラハラしましたが、すぐに復旧しましたからホッとしました。

角野 印象に残っているのは素人ですけど、自分たちがやった舞台上で、山田美那子さんが書いた「チューリップ咲いた」（2003年）という作品。2日間公演させていただきました。あの頃は許されたのか、お客さんが通路まで座られて、申し訳ないけど当時の市長まで通路に座られていて、「何で席取ってなかったん？」て反省しました。こういう歴史ある舞台だからこそ、もっと大勢の方に使ってほしいという思いがありますね。歴史上、いいものがすごく展開されているじゃないですか。だから、正直、なかなか敷居が高い。津山文化センターという名前もあるだろうし、利用料金をとって、僕らみたいなアマチュアの愛好家には、やりたいけども簡単にできな



角野功一さん